

イワシ類成魚の分布生態の研究

(我が国周辺漁業資源調査)

(予算区分 受託 研究期間 平成 7 年度 ~)

担当：資源海洋科 海野幸雄

【研究の背景とねらい】

国連海洋法条約批准に伴い、我が国周辺における漁業資源の漁獲可能量(TAC)を決定し、資源の保存及び管理に関する措置が義務付けられています。それを受け、重要魚種については資源評価が行われ、対象魚種の漁獲統計や生物情報等の収集が行われています。

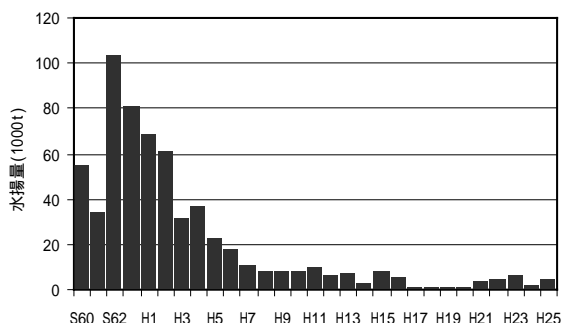
イワシ類についても、沿岸に出現するイワシ類成魚の漁獲統計や魚体組成を調査し、その成熟実態と併せて回遊との関連を検討します。

【これまでにも得られた成果】

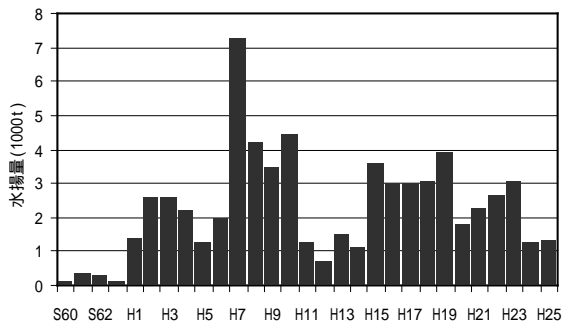
- ・ 県内におけるマイワシの水揚量は、昭和 62 年を頂点とした後に減少し、平成 17 ~ 20 年は極めて低水準で推移していました。平成 21 ~ 23 年は増加傾向にありましたが、平成 24 年は減少、平成 25 年は増加、平成 26 年は減少と近年、増減を繰り返しています。一方、伊豆東岸定置網による平成 26 年の水揚量は、平成 5 年以降 21 年間で最高となりました。
- ・ 県内におけるカタクチイワシの水揚量は平成元年に急増して以来、平成 7 年が最高で、それ以降は増減を繰り返しながらおおよそ 1,000 ~ 4,000 トンで推移しています。



上：マイワシ、下：カタクチイワシ



県内マイワシ水揚量の推移



県内カタクチイワシ水揚量の推移

【期待される成果】

- ・ 水揚量等、体長組成、成熟状況等の生物情報を基に来遊機構や資源状態を把握することで、より精度の高い資源評価や資源管理目標について検討を行うことが可能となります。

【今後の計画】

- ・ 成熟実態と漁況の関係、県内の漁況と全国の漁況との関係について検討し、静岡県周辺海域におけるイワシ類来遊機構について把握します。

(作成 平成 27 年 4 月)